

中国情勢と日米中関係

解題

法学部法学研究所長 山本 爲三郎

特別記事：慶應義塾大学法学部法学研究所講演会 中国情勢と日米中関係

昨年一二月五日（月）、三田南校舎ホールで、国分良成法学部教授による「中国情勢と日米中関係」と題する講演会を開催した。昨年度第三回目の法学研究所主催講演会である。中国は、隣国であり、近時ますます存在感を増大させている。それにもかかわらず、政治体制が異なることもあり、我々は中国を十分に理解しているとは言い難く、ややもすれば日中双方がともに感情的な論調に流されがちになる。そこで、この分野における世界的な権威のお一人である国分教授に、現代中国の分析をお願いした。

国分教授は、サントリーユ芸賞を受賞した『現代中国の政治と官僚制』（慶應義塾大学出版会）やアジア・太平洋賞特別賞の『アジア時代の検証　中国の視点から』（朝日選書）などの単著、『中国は、いま』（岩波新書）、『日米中トライアングル—三カ国協調への道』（岩波書店）や『地域から見た国際政治』（有斐閣）などの編著書、その他数多くの邦文あるいは英文の著書、論文を発表され、また、日本国際政治学会理事長、アジア政経学会理事長や新日中友好21世紀委員会委員など要職を歴任されている。このように、名実ともに現

代中國政治論、東アジア国際関係論の学界における第一人者である。

講演当日は、大学生や大学院生、会社員・公務員、研究職など多分野、多数の聴衆が南校舎ホールを埋め、留学生やマスコミ関係の方も多かつた。講演内容は次に掲載されているが、中国研究を始められた頃の状況から今後の日中関係まで、要点を押さえた説得力ある論調で熱弁され、特に後半は、冷静に分析されながら聴衆を圧倒するような勢いで論じておられた。講演後の質疑応答では、ビジネスコンサルタント、マスコミ関係者、留学生、外国人研究者の四名の質問にまとめて答えられた。TPP、中間層（社会主義国の中中国に中産階級という言葉は存在しない。階級はあつてはならないのである）、そして対米関係について、ウイットを交えながらも圧巻の答弁であつた。

一八時三〇分から二〇時過ぎまでの約一一〇分間（講演が約九五分、質疑応答が約一五分）は、充実した時間で短かつたと感じられた。国分教授に御礼申し上げるとともに、質問者を含む聴衆の方々の真摯な参加姿勢に敬意を表したいと思う。